

# 留学生支援ボランティア実習科目の開講実態とその課題

岡益巳

## 1. 問題点の所在

2007年度に通年科目として開設した「留学生支援ボランティア実習」(1単位)は、履修者の声を反映して2009年度には半期ごとに開講する「留学生支援ボランティア実習Ⅰ」(前期、1単位)及び「留学生支援ボランティア実習Ⅱ」(後期、1単位)に分割した。履修資格は、留学生相談室に所属する留学生支援団体「留学生支援ボランティア・WAWA」(以下、WAWAと略称)の登録スタッフであることに限定している<sup>(1)</sup>。履修登録者をWAWA登録スタッフに制限した理由は、履修者のボランティア活動の実態を把握するためである。当該授業科目担当教員はWAWAの顧問を務めており、日常的にWAWAの活動に関与してきた。

半期ごとの履修が可能になったことにより、当初は同科目の履修者数が順調に増加するものと期待された。しかし、科目開設から丸8年が経過した時点で履修状況を検証してみると、履修者数は必ずしも当初の期待通りに増加しておらず、特にここ数年は活動内容そのものにも問題点があることが判明した。すなわち、①履修者数が年度学期によって大きなばらつきがあり、2014年度後期には履修登録者がゼロとなった；②留学生交流支援活動の内容を見ると、最も主要な活動項目がWAWA固有の活動ではなくEnglish Café(現L-Café)の活動である者、或いは総活動時間に占めるL-Café等での活動時間の比率がかなり高い者も混在する。L-Café等の活動に関しては、留学生交流支援活動の一環であることから単位認定の基礎となる活動時間に繰り入れているものの、履修者の活動実態の把握が困難であるという問題を内包する。

筆者は2007年度から2013年度にかけて当該授業を担当した<sup>(2)</sup>。本稿では、2007年度から2013年度までの7年間に渡る留学生支援ボランティア実習科目の開講状況を整理・点検し、2014年度の履修状況を加味した上で当該科目のあり方について提言したい。

## 2. 開設に至る経緯と2009年度の開講方式改善

### 2.1 開設に至る経緯

留学生支援ボランティア実習科目を開設することになった経緯に関しては、Oka(2011)で触れている。2005年度に策定された教育開発センター2006年度計画の中に、設置予定の学生支援センターと協力してボランティア活動を評価し単位化する制度を立ち上げる旨の文言が記載された<sup>(3)</sup>。2006年7月開催の教育開発センター運営委員会においてボランティア科目設置に関する議論がなされ、翌2007年度に一般教育科目として2科目開

講することが承認された。具体的な開講科目に関しては紆余曲折を経て、学生支援センター教員が開講する「学生支援ボランティア実習」及び留学生センター教員が開講する「留学生支援ボランティア実習」の2科目と最終決定した<sup>(4)</sup>。

また、岡山大学学生支援センター（2010：13-14）の記述からも、留学生支援ボランティア実習科目の開設に至る経緯を読み取ることができる。すなわち、2000年6月に発表されたいわゆる「廣中レポート」を踏まえて<sup>(5)</sup>、本学では2001年に学生支援評価WGが設置され、学生支援にかかわる7項目が調査・検討された。そのうちの1項目が「ボランティア活動に対する支援」であった。2004年4月の国立大学の法人化に伴い「教育・学生支援機構」が設置され、2005年6月に学生支援センター設置WGが設置されたことにより、ボランティア科目の単位化を含めた総合的な学生支援の動きが加速した。

筆者は、2006年7月に松岡洋一学生相談室長（当時）の依頼を受けて「留学生支援ボランティア実習」を開講するためのガイドライン作成に着手した。「学生支援ボランティア実習」との整合性をもたせるため、松岡学生相談室長と協議の上、一部修正を加え、ガイドラインを決定した。

#### 1) 履修登録

WAWAの登録スタッフに限る。定員は20人。

#### 2) 活動時間

年間正味60時間以上の留学生支援活動に従事する。4月～1月まで月例活動報告書を提出する。

ただし、活動時間は履修者が申告した時間ではなく、原則として筆者が活動項目別に設定した標準活動時間によってカウントする。例えば、日本語教室の授業は60分であるが、メインインストラクターを務めた場合は、教案作成、教材準備、予習の時間も含めて4時間にカウントする。また、1日の活動時間の上限は、原則として4時間とする。

#### 3) 単位と成績評価

通年で1単位とし、評価は「修了」または「未修得」とする。

#### 4) 活動項目

WAWAの活動項目7種類のみならず<sup>(6)</sup>、留学生支援ネットワーク・ピーチの活動やその他の留学生支援活動を含む。

## 2.2 開講方式の改善

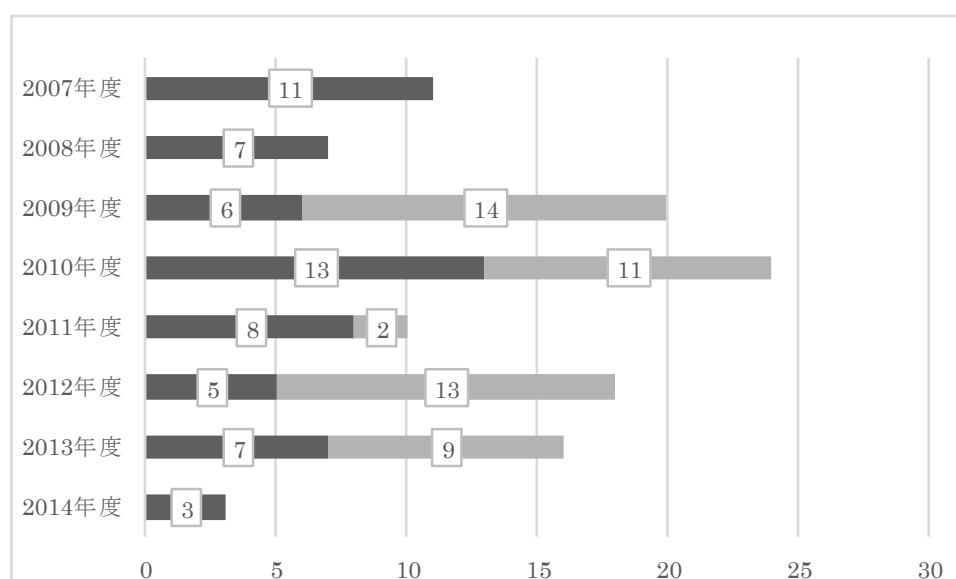
1年生がWAWAスタッフとして登録するのが5月になるため、通年開講科目の場合、2年生にならないと履修できないという不満の声が聞かれた。このため、2008年夏に松岡相談室長と協議した結果、2009年度以降は2科目とも半期ごとの開講科目とすることで合意し、同年秋に教育開発センターの承認を得た。この変更に伴い、活動時間は半期で

30 時間以上、単位は半期で 1 単位とすることとし、1 年次後期からの履修が可能となり、履修者数の増加が期待された。

### 3. 履修状況の検証結果

#### 3.1 履修登録者の年度別・学期別内訳

2007 年度から 2013 年度にかけての 7 年間に延べ 106 人が履修登録した。通年科目であった 2007 年度と 2008 年度の履修者登録者数は各々 11 人、7 人であった。履修希望者の要望に配慮して半期ごとに開講することにした 2009 年度は 20 人、2010 年度は 24 人の履修登録者があり、その後も年間 20 人前後の履修登録者があると予測されたが、2011 年度には 10 人に激減し、2012 年度、2013 年度は共に 10 人台に留まった。さらに、2014 年度は年間 3 人（前期 3 人、後期ゼロ）という最悪の状況に陥ってしまった。2014 年度までの履修登録者の年度別・学期別人数を図 1 に示す。



注 1) 2007 年度及び 2008 年度は通年科目であった。

注 2) 2014 年度後期の履修者はゼロであった。

図 1 年度別・学期別登録者数（2007～2014 年度 N=109）

#### 3.2 男女別履修登録者

本節以降は筆者が授業を担当した 2007 年度から 2013 年度にかけて履修登録をした 106 人に関するデータを分析する。

履修登録者を性別で見ると、「女性」が圧倒的に多く 83.0%を占め、「男性」は 17.0%に留まる。この割合は WAWA 登録者の男女比にほぼ正比例している。ちなみに、2007 年度から 2013 年度までの 7 年間の WAWA 登録者に占める女性の割合は 81.3%である<sup>(7)</sup>。

### 3.3 学年別履修登録者

履修登録者 106 人を在籍学年別にみると、「2年生」が最も多く 47.2%を占める。次いで「1年生」が 29.2%、「3年生」が 14.2%である。

WAWA のスタッフ登録は、約 1 か月のボランティア活動体験を経た後に行われるため、通年科目であった 2007 年度と 2008 年度においては、1 年生の履修登録はできなかった。2009 年度以降は半期ごとの開講となったことで、1 年生の後期から履修が可能になった。このため 2009 年度から 2013 年度の 5 年間でみると、1 年生の履修登録者割合は 35.2%に増える。

社会人で言語教育センターの日本語副専攻コースを履修している者で、且つ、WAWA に登録した上、コース科目としての留学生支援ボランティア実習科目を履修した者が延べ 4 人 (3.8%) 存在する。

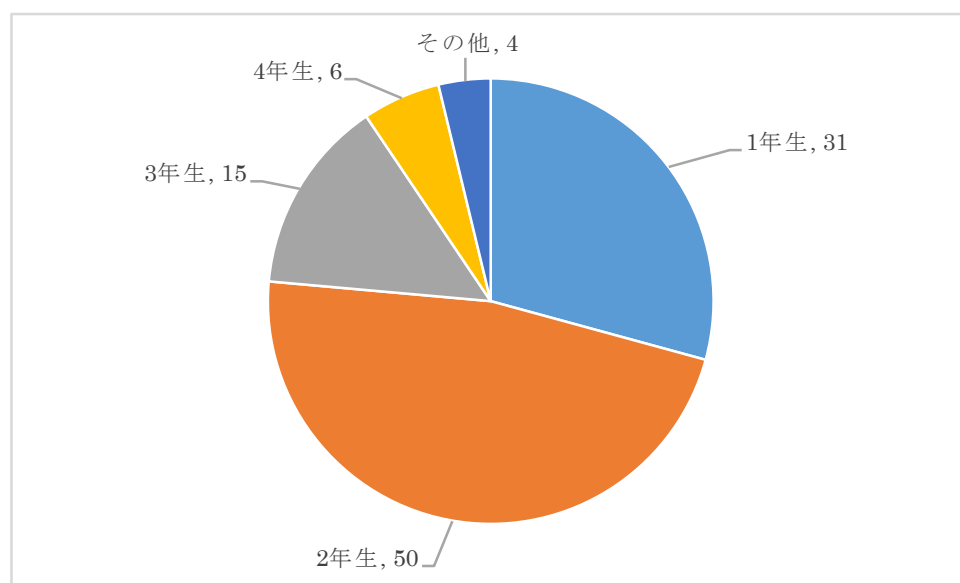


図2 学年別履修登録者 (2007~2013 年度 N=106)

### 3.4 所属学部別履修登録者

履修登録者 106 人のうち、「文学部」が 37.7%で最も多く、「経済学部」18.9%、「教育学部」10.4%、「法学部」9.4%「工学部」7.5%の順に多い。11 学部中、履修登録者がなかったのは「歯学部」のみであり、文系 3 学部で全体の 66.0%を占める。学部に所属しないマッチングプログラムコースの学生の履修者もあった。この期間中の WAWA 登録者数をみると、文学部が最も多く、経済学部、法学部、教育学部、薬学部、工学部の順であり、概ね履修登録者の所属学部別割合に比例していると言って差し支えない<sup>(8)</sup>。

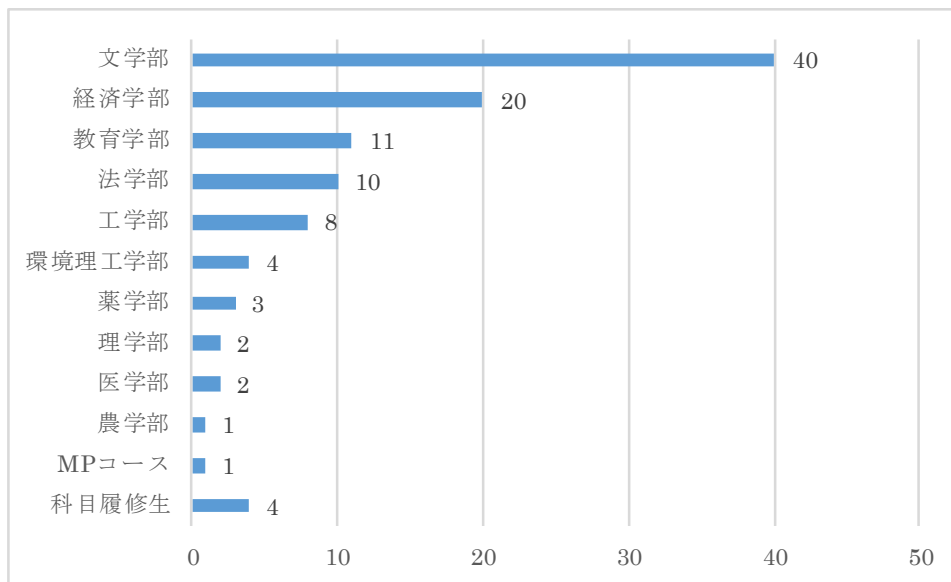


図3 所属学部別履修登録者（2007～2013年度 N=106）

### 3.5 単位修得者の活動内容

履修登録者 106 人中 97 人 (91.5%) が単位を修得したが、9 人 (8.5%) は未修得であった。本節では単位を修得した 97 人について、提出された活動報告書の内容を検証してみることにする。

筆者が当該科目担当教員として懸念したことは、近年ボランティア活動総時間に占める L-Café での活動が 3 割を超える履修者が散見されるようになった点である。L-Café の前身である English Café は 2009 年 5 月に、日本語カフェは同年 7 月に設置された。その後、韓国語カフェ、中国語カフェ、フランス語カフェ、ドイツ語カフェなどが相次いで誕生した。2013 年 5 月には English Café が L-Café に改称され、一般教育棟 A 棟 1 階西側に移転したのに伴い、従来活動拠点がばらばらであった各種カフェの活動も概ね L-Café 内で実施されるようになった。

Oka (2011) では、2007 年度から 2010 年度にかけての留学生支援ボランティア活動を 9 項目に分類したが、カフェでの活動は「⑨その他」に含めた。2009 年度及び 2010 年度において、単位を修得した 41 人中 English Café での活動を報告した者は 1 人もいなかった。他方、この 2 年間で日本語カフェでの活動を報告した者は延べ 11 人 (26.8%) 存在する。この 11 人は各々活動時間の 0.6% から 26.9% の範囲で日本語カフェの活動に参加しており、平均すると 11 人の活動総時間数の 11.2% を占めるに過ぎず、WAWA 固有の活動時間が基準値の 30 時間を下回る者は一人も存在しなかった。

単位を修得した 97 人について、その最も主要な活動を抽出したものを表 1 に示す。97 人中 86 人 (88.7%) は、WAWA 固有の活動項目が最も主要な留学生交流支援活動であっ

た。その活動項目の内訳は、「お話し会」25.8%<sup>(9)</sup>、「日本語教室」22.7%、「チュータリング」21.6%、「交流イベント」18.6%であった。「カフェ」での活動が最も主要な項目であった者は11人(11.3%)であり、その内訳は「English Café」9.3%、「日本語カフェ」及び「韓国語カフェ」が各々1.0%であった。「カフェ」が最も主要な活動項目であった11人の年度別の内訳は、2011年度2人、2012年度1人、2013年度8人である。

表1 単位修得者の最も主要な活動項目（2007～2013年度）

年 度	WAWA固有の活動				小計	カフェ活動	合 計
	チュータリング	日本語教室	お話し会	交流イベント			
2007年度	3	4	3	1	11	0	11
2008年度	3	2	1	0	6	0	6
2009年度	5	6	8	0	19	0	19
2010年度	3	5	12	2	22	0	22
2011年度	0	2	1	2	5	2	7
2012年度	4	3	0	8	15	1	16
2013年度	3	0	0	5	8	8	16
合 計	21	22	25	18	86	11	97

「留学生支援ボランティア活動月例報告書」の例を表2に示す。ちなみに、表2に示した履修者の最も主要な活動項目は「チュータリング」20.0時間であった。このほかに、毎週水曜日開催の定例ミーティングに参加し、ウェルカムパーティー及び・フェアウェルパーティーの企画実施を担当し、フィリピン台風被

表2 留学生支援ボランティア活動月例報告書

( ○○ )学部( 2 )年 (名前: ○○○○ )				
( 10 )月				
日	曜日	開始～終了時間	活 動 内 容	* 認定
2	水	12:00～12:40	WAWAミーティング	0.5
9	水	12:00～12:40	WAWAミーティング	0.5
		14:30～16:30	Welcome Party会場飾り付け作成	2.0
10	木	13:00～14:30	チュートリアル(書類作成補助、郵便局付き添い)	1.5
16	水	12:00～12:40	WAWAミーティング	0.5
17	木	16:45～17:15	日本語カフェ	0.5

18	金	22:00～23:00	チュートリアル(学習補助)	1.0
23	水	12:00～12:40	WAWAミーティング	0.5
26	土	14:30～17:30	Welcome Party準備	-
		17:45～20:30	Welcome Party本番	-
		20:30～21:30	Welcome Party片付け	4.0
			26日計	
30	水	12:00～12:20	WAWAミーティング	0.5
		15:00～18:00	チュートリアル(携帯電話契約の補助)	3.0
注) * 欄は記入しないこと。欄が足りないときは裏面に。 認定時間合計				14.5
<u>今月特に力を入れた／印象に残った活動</u>				
<p>初めてのチューター活動です。</p> <p>契約なんて私自身自力でできないのに、どうしよう...と不安でしたが、△△さんのところと合同で行ったので何とかできました。</p> <p>2人きりで1時間お話しした時は日本語を教えながら楽しく会話できたので、このような時間をできるだけ設けようと思います。</p>				
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>次の月の10日までにC303岡に提出すること</p> </div>				

注) 2013年度のフォームである。

災者救援募金活動に加わるなど、WAWA 固有の活動に 61.5 時間従事した。さらに、日本語カフェの活動にも 7.5 時間参加した。当該履修者は留学生支援ボランティアの典型例であると言えよう。

WAWA 固有の留学生交流支援活動以外に従事した者の活動項目と時間数を表 3 に示す。単位修得者 97 人中 37 人 (38.1%) が WAWA の活動以外の活動に参加している。複数の活動項目に跨がる者も存在し、それらの参加者の内訳は次の通りである。「English Café」19.6%、「日本語カフェ」15.5%、「フランス語カフェ」6.2%、言語教育センター日本語授業の「会話パートナー」4.1%、「中国語カフェ」3.1%、「韓国語カフェ」2.1%、「キャンパス・アジア交流事業」2.1%、「ESD 事業」1.0%、「語学研修生受入事業」1.0%となっている。

総活動時間に占める WAWA 以外の活動時間が 30%以上である者及び WAWA 固有の活動時間が 30 時間に満たない者に着目すると次の事実が明らかになる。

①WAWA 以外の活動時間が 30%以上であり、且つ、WAWA 固有の活動時間が 30 時間以上の者は 6 人存在する。

②WAWA 以外の活動時間が 30%以上であり、且つ、WAWA 固有の活動時間が 30 時間未満の者は 5 人存在し、この 5 人の WAWA 固有の活動時間は各々 28.5 時間、27.5 時間、24.5 時間（2 人）、20.5 時間である。

③WAWA 以外の活動時間が 30%未満であり、且つ、WAWA 固有の活動時間が 30 時間に満たない者が 4 人存在し、この 4 人の WAWA 固有の活動時間は各々 29.5 時間、29.0 時間、27.5 時間、23.5 時間である。

表3 L-Café 等の WAWA 以外の活動に参加した者

度・期	一連 No.	L-Café					会話P	CA	その他	計 A	総活動 時間 B	A/B (%)
		英	日	中	韓	仏						
2009年度前期	1		18.5						18.5	67.0	27.6	
2009年度後期	2		0.5						0.5	77.5	0.6	
	3		17.0						17.0	67.5	25.2	
	4		7.5						7.5	59.0	12.7	
	5		10.5						10.5	58.0	18.1	
2010年度前期	6		9.0				13.5		22.5	142.5	15.8	
	7		2.5						2.5	60.5	4.1	
	8		8.0						8.0	53.5	15.0	
2010年度後期	9		11.5				8.5		20.0	120.5	16.6	
	10		3.5				1.5	7.0	12.0	50.5	23.8	
	11		2.5						2.5	35.5	7.0	
2011年度後期	12	41.5	2.0						43.5	96.0	45.3	
	13	18.0	10.0						28.0	59.5	47.1	
2012年度前期	14	1.5							1.5	116.0	1.3	
	15	3.0		3.5					6.5	82.0	7.9	
	16	5.5							5.5	59.0	9.3	
	17						4.5		4.5	42.5	10.6	
2012年度後期	18	7.0							7.0	81.0	8.6	
	19	2.0							2.0	38.5	5.2	
	20	11.0							11.0	35.5	31.0	
	21	5.0				1.5			6.5	34.0	19.1	



	22					5.0 <sup>1</sup>	5.0	60.5	8.3	
2013年度前期	23	56.5 <sup>1</sup>		1.5 <sup>1</sup>				58.0	153.5	37.8
	24				1.0			1.0	91.0	1.1
	25	1.5 <sup>1</sup>			1.5 <sup>1</sup>			3.0	53.0	5.7
	26		21.5 <sup>1</sup>					21.5	52.0	41.3
	27	20.5 <sup>1</sup>						20.5	48.0	42.7
	28	1.5 <sup>1</sup>						1.5	31.0	4.8
2013年度後期	29	45.5 <sup>1</sup>		8.5 <sup>1</sup>	1.5			55.5	155.5	36.7
	30	6.0 <sup>1</sup>			2.5			8.5	109.0	7.8
	31	82.0 <sup>1</sup>						82.0	102.5	80.0
	32				20.5 <sup>1</sup>		18.0 <sup>1</sup>	38.5	87.5	44.0
	33			11.5 <sup>1</sup>				11.5	69.0	16.7
	34	16.0 <sup>1</sup>				0.5		16.5	45.0	36.7
	35	17.5 <sup>1</sup>						17.5	42.0	41.7
	36	2.0 <sup>1</sup>					4.0	6.0	35.0	17.1
	37				9.5			9.5	33.0	28.8

注 1) 2011年度前期は該当者なし。

注 2) 英=English Café、日=日本語カフェ、中=中国語カフェ、韓=韓国語カフェ、仏=フランス語  
 カフェ、会話 P=日本語授業の会話パートナー、CA=キャンパス・アジア交流事業。

### 3.6 単位未修得者の活動状況

未修得の9人がボランティア活動に従事した時間と概要は次の通りである。

① **Aさん**：2008年度 34.0時間／60時間。10月末時点で18時間しか活動していなかったため、積極的に参加するように促し、11月には14時間活動したものの、12月以降はミーティングに数回参加しただけで終わった。

② **Bさん**：2009年度後期 3.5時間／30時間。10月に3.5時間活動した後、履修を断念するとの申し出があった。

③ **Cさん**：2010年度前期 0時間／30時間。履修登録した直後に履修を断念するとの申し出があった。

④ **Dさん**：2010年度後期 26.5時間／30時間。10月は19時間活動したが、11月6時間、12月1.5時間と急速に活動意欲を失い、1月は活動報告書を提出しなかった。

⑤ **E君**：2011年度前期 10.0時間／30時間。4月、5月は活動に参加したが、6月以降姿を見なくなった。

⑥ F君：2011年度前期 10.0時間／30時間。4月、5月は活動に参加したが、6月以降姿を見なくなった。E君とF君は同じ学部の同級生で同時に履修登録手続きをした。

⑦ Gさん：2011年度前期 10.0時間／30時間。4月のみ活動に参加したが、履修を断念するとの申し出があった。

⑧ Hさん：2012年度後期 24.0時間／30時間。10月から1月までの4か月間で正味19.5時間しか活動しておらず、2月の活動予定4.5時間を加えても最低活動時間をクリアできなかった。

⑨ I君：2012年度後期 17.0時間／30時間。10月は11.5時間活動したが、11月以降はミーティングに出席しただけで具体的な活動には参加しなかった。

## 4. 考察

### 4.1 履修登録者の概要

2007年度から2013年度にかけて履修登録した106人で見ると、約9割が単位を修得した。1割弱の9人が未修得で終わったが、年間60時間或いは半期（実質4か月）30時間以上のボランティア活動に従事するとした認定基準はさほど厳しいものではなく、半期の場合では週当たり2時間の活動を4か月続ければクリアできる。例えば、週1回ミーティング（0.5時間）に参加し、週1回チュータリング（1.5時間）を行えば4か月で32時間となる。事実、基準時間の2倍以上の活動をした者が通年で5人、半期で24人、合計29人いることが判明した。ちなみに、半期の活動時間の最高は155.5時間であった。通常の講義科目が1.5時間×15回または16回で2単位であることを考え合わせると、留学生支援ボランティア実習科目の認定基準（半期30時間、1単位）は妥当であると言える。また、科目の性質上、A・B・Cといった成績評価は適用し難く、現行の「修得」が妥当である。

履修登録者全体に占める女性の割合が8割強であるが、WAWA登録者に占める女性の割合も8割強であり、両者は正比例している。履修登録者の5割弱が2年生であるが、WAWAの活動の中心となるのは2年生であることから2年生の履修登録者が最も多いのは当然である。履修登録者の所属学部は文学部が最も多く、文系学部が上位を占めるが、これもWAWA登録者の所属学部と概ね正比例している。

### 4.2 履修登録者数の減少とその対策

年度・学期別の履修登録者数を見ると、通年開講科目であった2007年度と2008年度は10人前後であったが、半期開講科目とした2009年度には20人に倍増し、2010年度も20人台を保った。しかし、2011年度、2012年度及び2013年度には10人台に減少した。さらに、2014年度には3人（前期3人、後期ゼロ）にまで激減した。2007年度から

2014 年度までの各年度末現在での WAWA スタッフ登録者数は、年度によって多少の凹凸はあるものの 50 人台～70 人台に収まっている。履修登録者数が年度・学期で多少のばらつきがあるのは致し方のないことであるが、履修登録者ゼロという事態は看過できない。

2014 年度後期の履修登録者がゼロであった理由は、同年度前期末までに WAWA スタッフ登録をした 1 年生が一人もいなかったこと、活動の中心となる 2 年生の履修希望者が一人もいなかったことに求められる。教科担当教員である WAWA 顧問が 1 年生に対して、直接或いはリーダーを通じて、早めにスタッフ登録するように指導しなかったため、活動の中心となる 2 年生に対して積極的に履修の呼びかけをしなかったため、と推測される。

WAWA スタッフが留学生交流支援活動の結果を「単位」という目に見える形で残すことには意義がある。当該科目は卒業要件となる単位数には含まれないが、成績表には履修した事実が記載されるため、留学生交流支援活動を経験したことの証となる。副次的なメリットとして、就職活動に際して課外活動に従事したという自己アピールを補完する材料となる。

新規スタッフ登録は WAWA リーダーの責任でもあり、活動に参加して 1 か月が経過した時点で一緒に活動をやっていくことができるとリーダーが判断した者に対してスタッフ登録を勧めるルールがある。リーダーは毎年交代するため、顧問教員がリーダーに適宜アドバイスを行い、登録手続きが遅滞しないように配慮する必要がある。また、顧問教員は、新規にスタッフ登録した 1 年生のみならず、2 年生以上のスタッフに対しても留学生支援ボランティア実習科目の履修登録を行うように、WAWA の定例ミーティングの場で積極的に働きかける必要がある。

### 4.3 L-Café 等での活動

単位修得者 97 人で見ると、最も主要な活動項目が「お話し会」、「日本語教室」、「チュートリアル」、「交流イベント」といった WAWA 固有の活動項目である者が 9 割弱を占めるが、各種カフェでの活動であった者が 1 割強存在した。

岡・安藤 (2013) によると、WAWA の活動の 4 本柱は、1) 来日時の受入れ支援、2) チュートリアル・サービス、3) 日本語教室、4) 異文化交流イベントである (pp. 6-7)。「来日時の受入れ支援」が最も主要な活動項目であった者が存在しない理由は、学期初めの 1 週間程度の短期間に行われる支援活動であるためである。また、4 本柱ではない「お話し会」を最も主要な活動項目とした者が多い理由は、お話し会のリーダー、サブリーダー以外は事前の準備がほとんど必要なく、極めて参加しやすい活動項目であったためである。

これまで筆者は WAWA のスタッフに対して、English Café 等の WAWA 以外の活動にも積極的に参加し、幅広い留学生交流支援活動に従事することを推奨してきた。2009 年度と 2010 年度には English Café での活動を報告した者はいなかったが、日本語カフェで留学生支援活動を行った者が単位修得者の 4 人に 1 人存在した。これは 2009 年度末まで日本語教員が国際センターに所属していたことから<sup>(10)</sup>、WAWA のボランティア養成講座の講師として協力したり、WAWA 主催の各種パーティーに参加したりするなど、WAWA スタッフと日本語教員との距離が近く、日本語教員が主催する日本語カフェに興味を抱いた WAWA スタッフが多かったせいであろう。その後は「日本語カフェ」に参加する者が顕著に減少し、2011 年度 2 人、2012 年度なし、2013 年度 2 人に留まり、この 3 年間で単位を修得した 39 人の 1 割を占めるに過ぎなかった。

他方、English Café の活動に参加した者は、2011 年度 2 人、2012 年度 7 人、2013 年度 10 人と増加した。近年の WAWA 登録者の傾向を見ると、海外留学を志向する者、留学生と英語で交流することを希望する者が増加しており、その結果として English Café の活動に参加する者が増加している。また、English Café のみならず、日本語カフェ、中国語カフェ、韓国語カフェ、フランス語カフェの活動にも参加している者もあり、これに加えて言語教育センターの日本語授業の「会話パートナー」や同センター主催の語学研修生受入れ事業への参加、キャンパス・アジア交流事業や ESD 事業に参加協力するなど、WAWA 固有の活動以外に従事した者は合計 37 人にのぼり、単位修得者の 4 割弱を占める。

2011～2013 年度の履修者のうち、総活動時間に占める WAWA 以外の活動時間が 30%以上の者が 11 人存在した（表 3）。そのうちの 6 人は WAWA 固有の留学生支援活動に 30 時間以上従事しており、単位認定の際に何ら問題はなかったが、WAWA 固有の活動時間が 30 時間未満の 5 人（表 3 の #20・27・32・34・35）については、その内容が留学生支援に関わるボランティア活動と認められるものであるかどうか、きちんと把握する必要があった。また、WAWA 以外の活動時間が 30%未満で、且つ、WAWA 固有の活動時間が 30 時間に満たない 4 人（#21・28・36・37）についても、慎重に活動状況の把握を行う必要があった。単位認定の際に注意を要した 9 人について WAWA 固有の活動時間を見ると、認定基準 30 時間の 9 割以上 5 人、8 割以上 2 人、7 割以上 1 人、7 割未満 1 人であった。

筆者としては、WAWA 固有の活動時間が認定基準の 7 割（21 時間）以上であること、できれば 8 割（24 時間）以上であることを要求したい。その理由は、①WAWA 固有の活動項目以外は授業科目担当教員が活動実態を把握することが難しい；②L-Café での活動には「交流支援」ではなく、自らの「英語を初めとする外国語運用能力の向上」を目的とする活動も含まれ、ボランティア活動とは認めがたい場合もあるためである。

WAWA 固有の活動が認定基準時間の 7 割未満であった者（#32）の活動実態を見ると、

WAWA 固有の活動としては、ミーティング、ワールドキッチン、イアエンドパーティー参加など 20.5 時間に過ぎなかったが、L-Café では、チューターとして留学生と日常的に交流したほか、ハロウィンパーティー、イングリッシュキャンプ、京都旅行に参加するなど 56.0 時間にも上る活動に参加した<sup>(11)</sup>。当該履修者が英語圏への留学を目指し、L-Café で積極的に留学生交流支援活動に取り組んでいた事実が確認されたため、WAWA 固有の活動時間の少なさにはやや問題があると感じたものの、単位を認定した。ちなみに、4月のみ WAWA の活動に参加し、履修を断念すると申し出て単位未修得となった G さんは、卒業するまで English Café に入り浸っていたが、WAWA の活動にはほとんど参加しなくなった。

## 5. 結び

履修希望者の減少傾向に歯止めをかけるために、WAWA 顧問教員の積極的な関与が必要であることを再確認した。また、筆者は、履修者による留学生交流支援活動の実態を把握するために、WAWA 固有の活動が単位認定基準 30 時間の 7、8 割以上占めることが望ましい、との見解を示した。2010 年度末までは活動実態の把握に関してさほど問題が生じることはなかったが、2011 年度には総活動時間の 4 割以上がカフェでの活動であると報告した者が現れ、2012 年度には単位修得者の中で WAWA 固有の活動時間が基準値の 30 時間に満たない者が初めて出現した。2013 年度にはこうした傾向が一段と強まり、単位修得者の中でカフェ等での活動が 4 割以上を占める者 (5 人) や WAWA 固有の活動時間が 30 時間に満たない者 (7 人) が存在した。L-Café 等での活動も留学生交流支援活動の一環であり、積極的に評価すべきであり、これらの活動を如何にして正確に把握するかが今後の課題である。

さらに、緊急に対応策を講じる必要のある大きな課題として、2016 年度に導入が決定している 60 分授業・クォーター制への移行がある。留学生交流支援活動の教育的意義を考えた場合、実質 8 週間の 1 クォーターでは十分な活動成果は望めないが、1 クォーター 0.5 単位の科目として開講するのか。第 1 クォーター或いは第 3 クォーターの活動歴を踏まえて、それぞれを第 2 クォーター或いは第 4 クォーターに 1 単位として認定するのか。科目開講に関わる基本的な部分で検討を要する。

## 注

- (1) WAWA スタッフは岡山大学の学生が主体であるが、一般市民 (本稿では「社会人」と表記) も登録することができる。WAWA の詳細に関しては岡・安藤 (2013) を参照されたい。
- (2) 筆者は 2013 年度末を以て定年退職したため、2014 年度には後任の教員が WAWA 顧問及び当該科目の担当を引き継いだ。
- (3) 学生支援センターは 2006 年 7 月 1 日に設置された。

- (4) 留学生センターは、2007年4月に「国際センター」に改組され、さらに2014年7月に「グローバル・パートナーズ」に改組された。
- (5) 大学の正課教育と比べて正課外教育への取組が遅れていることを指摘した上で、今後の大学のあり方として「教員中心の大学」から「学生中心の大学」への視点の転換と正課外教育の積極的な捉え直しが提言された（学生支援センター，2010：13）。
- (6) WAWAの活動項目は、①全体ミーティング、②ボランティア養成講座、③受入支援、④チュートリアル・サービス、⑤日本語教室、⑥お話し会、⑦交流イベント、⑧旧国際センター主催行事への参加及び協力、⑨その他である。
- (7) 岡・中島・廣田（2008）p.19、岡・中島・廣田（2009）p.27、岡・石田・廣田（2010）p.25、岡・石田・廣田（2011）p.49、岡・石田・廣田（2012）p.49、岡・石田・中島・廣田（2013）p.53、岡・石田・中島・廣田（2014）p.34により算出した。なお、この7年間ではWAWA登録者に占める女性の割合が73.8%～90.0%の間で推移している。
- (8) 注(7)の資料による
- (9) 「お話し会」は、日本語カフェのオープンに伴い、留学生の参加者が減少したため、2011年度前期末を以て活動を中止した。
- (10) 日本語教員は2010年4月に言語教育センターへ異動した。
- (11) #32はL-Caféでの活動を82.0時間と報告したが、そのうちの26.0時間は自らの英語力向上を目的とする活動であると判断されたため、ボランティア活動としての認定時間から除外した。

## 参考文献

- 岡益巳・安藤佐和子（2013）「留学生支援ボランティア・WAWAの活動を振り返って—その20年の総括—」『大学教育研究紀要』第9号，pp.1-16.
- 岡益巳・石田聡子・廣田陽子（2010）『2009年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・石田聡子・廣田陽子（2011）『2010年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・石田聡子・廣田陽子（2012）『2011年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・石田聡子・中島嘉子・廣田陽子（2013）『2012年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・石田聡子・中島嘉子・廣田陽子（2014）『2013年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・中島美奈子・廣田陽子（2008）『2007年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- 岡益巳・中島美奈子・廣田陽子（2009）『2008年度 留学生相談室活動報告書』岡山大学国際センター留学生相談室
- Oka, M. (2011) Establishing and Managing the Subject “International Student Support Volunteer Practice” 『大学教育研究紀要』第7号，pp.1-14.
- 岡山大学学生支援センター（2010）『岡山大学学生支援センター年報』第3号